は　じ　め　に

大津市では、障害児支援の強化を図るために、子ども一人ひとりの発達に応じた一貫した支援体制づくりを目指して、療育、保育、教育の充実を行っています。平成 30(2018)年3月に策定した「おおつ障害者プラン」＜大津市障害者計画、大津市障害福祉計画（第５期計画)、大津市障害児福祉計画（第１期計画）＞を具体的な取り組みとして実施しているところです。プランで出されている、将来像として「一人ひとりが尊重され、だれもが心豊かに暮らせる共生のまち“大津”」の実現に向けて７つの重点目標に取り組む施策をより具体化するために、日々の療育実践から明らかになったことを踏まえ、切れ目のない支援の提供を目指していきます。

昨年度末より新型肺炎コロナウイルスの感染拡大防止に対応して、療育でも行事を縮小して行うなど、社会のなかでの出来事に対応するなかで、改めて子どもらしく当たり前の生活を保障することの大切さと、家族が元気で過ごせる家族支援について多くのことを考え検討してきました。また、４月より市立幼稚園での３年保育が全園実施となり、療育を利用している子どもの年齢は９割が１歳児・２歳児と低年齢化しています。療育前親子教室利用の子どもの対象年齢も同様の傾向にあります。親子で通いながら遊びを楽しみ、身近な人との関係作りや人とのつながりができ、子育ての相談をしたり情報を共有･交流したりして、家族を支える場となるよう療育前早期対応親子教室の事業を充実してきています。

３歳児保育の実施で地域の子育て環境は豊かになる一方で、発達支援の必要性がありながら療育に通うことなく集団生活がスタートする子どもが全体の７割を占めています。０歳児からの発達支援と子育て支援のスタートが、大津方式を基盤に関係機関や療育・保育・教育機関の更なる連携のなかで発達支援のシステムのなかに組み込まれ、切れ目のない支援を目指し連携を強めていくことが必要です。また、医療的ケアは必要であっても、地域の中で就学を迎える子どもたちもいます。放課後デイサービスの利用も、一人ひとりの子どもたちに必要な支援として受けられるように、自立支援協議会の取り組みとともに、大津市のどこに住んでいても、子どもたちや家族が身近な地域で質の高い支援が受けられるよう、そこに暮らす市民の願いをつかみながら、地域や関係機関とのネットワークをさらに強化していきます。北部・中部・東南部にある３つの療育とやまびこ相談支援事業所が地域と連携を図り、子どもたちに質の高い支援の提供に努めるとともに子どもの育ちを繋いでいけるように更なる努力を重ねてまいります。

さてここに、令和元年度の大津市の療育の概要と資料をまとめました（令和２年度年報概要・資料編)。

是非とも多くの関係機関の方にご高覧いただきますようお願い申し上げます。

令和２年６月
やまびこ園・教室
園長　河村　史恵